

再 評 価 書

事業名	森林整備（林道開設）事業	事業区分	県営林道浅谷越線	室名	森林保全室																								
事業概要	工期	平成6年～20年（15年間）	全体事業費	2,411百万円（負担率：国50、県50）																									
事業目的及び内容																													
<p>（1）所在地 熊野市飛鳥地内の国道42号から小又地内に延びている市道小又線を起点とし、尾鷲市との境界に近い浅谷越を経て、新鹿地内の市道津恵線を終点とします。</p> <p>（2）事業の目的 熊野市北東部の森林から熊野原木市場までの短縮ルートとなることから、搬出コストなどの低減を図ることによって林業の生産性を向上させ、豊富な森林資源を活かし、主要産業である林業の活性化を図るとともに、森林の適正管理を推進する。 併せて、市内を南北に縦貫する主要道路の国道42号と国道311号を小又、新鹿両地区で連絡する道路として、地域道路網を形成することによって、津波などで沿海部の311号が不通となった場合の迂回路、新鹿海岸へのアクセスルートとして、生活基盤の改善、地域の活性化を図る。</p> <p>（3）全体計画 全体延長：12,700m（うち起点から4,140mは既設林道を改築利用） 全幅員：4m 全体事業費：2,410,780千円（190千円/m） 事業期間：平成6年度～平成20年度（15年間）</p> <p>（4）利用区域の森林資源の状況 利用区域面積は1,049ha、国有林を除いた民有林面積は857ha、民有林のうちスギ・ヒノキの人工林面積は773haで、民有林人工林の88%が16～50年生の間伐対象の森林です。</p>																													
事業主体の再評価結果																													
1 再評価を行った理由																													
再評価実施後5年を経過して継続中の事業であることから、三重県公共事業再評価実施要綱第2条に基づき再評価を行いました。																													
2 事業の進捗状況と今後の見込み																													
<p>（1）課題 平成15年度末の進捗状況は、延長で59%、事業費で49%で、事業計画期間内での完成は困難な状況で、事業完了は平成26年度になる見通しです。</p> <p>（2）変更計画 全体延長：12,700m 幅員：4m 全体事業費：2,410,780千円（190千円/m） 事業予定期間：平成6年度～平成26年度（21年間）</p> <p>（3）変更計画に対する進捗状況</p> <table style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>開設延長</td> <td></td> </tr> <tr> <td>進捗率</td> <td></td> </tr> <tr> <td>事業費</td> <td></td> </tr> <tr> <td>進捗率</td> <td></td> </tr> <tr> <td>開設単価</td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成10年度末</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2,869m</td> <td></td> </tr> <tr> <td>22.6%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>420,780千円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>17.5%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>147千円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成15年度末</td> <td></td> </tr> </table>						開設延長		進捗率		事業費		進捗率		開設単価		平成10年度末		2,869m		22.6%		420,780千円		17.5%		147千円		平成15年度末	
開設延長																													
進捗率																													
事業費																													
進捗率																													
開設単価																													
平成10年度末																													
2,869m																													
22.6%																													
420,780千円																													
17.5%																													
147千円																													
平成15年度末																													

7,546m
59.4%
1,180,780千円
49.0%
156千円

11～15年度
4,677m
36.8%
760,000千円
31.5%
162千円

残計画
5,154m
40.6%
1,230,000千円
51.0%
239千円

(4) 利用区域内の森林整備の状況

整備面積
うち間伐

H11～15実績
429.2ha
374.3ha

H16～20計画
196.0ha
145.8ha

計
625.2ha
520.1ha

(5) その他利用区域内の状況

利用区域内には、平成2年度の台風19号により風倒の被害を受けた森林がありましたが、当林道を利用し、治山事業により治山施設整備や森林整備を実施しています。

3 事業を巡る社会経済状況等の変化

(1) 関連集落の変化

起点側飛鳥町、新鹿町とも5年間の人口はほぼ横ばいで推移しています。

高齢化率については飛鳥町小又地区、新鹿町とも市の平均を大きく上回り、65歳以上の割合が5割に近くなっています。

(2) 森林・林業情勢の変化

鬼の国物流協同組合は、若手林業家が中心となって、木材需要拡大を図るために異業種連携で昭和61年に設立された協同組合で、加工施設等を順次整備し、間伐材等を資源にスノコ等の加工販売により順調に業績を伸ばしています。

国道42号沿いにある加工販売施設は平成9年10月には道の駅に登録されるなど、木工製品や熊野の地域産品の販売拠点となっています。

熊野市は、木造住宅建設支援や作業道開設支援、森林に対する市民の意識高揚を図るための森づく

り市民活動支援等、森林整備や木材利用を推進するため単独事業を積極的に実施しています。
熊野市森林組合では、平成12年度から16年度の5年間で12名の新規就業者を採用していますが、作業員数は平成12年度21名に対し平成16年度17名と減少しています。
森林整備活動の中核を担う認定林業事業体が森林組合以外に6社あります。
平成13年6月に、これまでの木材生産を主体とした政策から、森林の持つ多様な機能を持続的に発揮させるための政策への転換を図るため、林業基本法が大きく改正され、森林・林業基本法として成立しました。

(3) 財政状況の変化

本県の厳しい財政状況によって林道事業予算が減少しており、進捗が伸び悩んでいます。

4 事業採択時の費用対効果分析の要因の変化、地元の意向

4-1 費用対効果分析

林野公共事業の費用対効果分析は平成12年度から導入されたため、事業採択当時及び前回再評価時点は費用対効果分析を行っていません。

4-2 地元の意向

(1) 受益者

木材価格が低迷する中、林業振興のために収益性の向上を図る林道は必要であり、早期の完成を望んでいます。

(2) 熊野市

熊野市の主要産業である林業の振興を図る重要な施設であるとともに、熊野市有林も利用区域内にあり、事業継続を望んでいます。

<p>5 コスト縮減の可能性や代替案立案の可能性</p> <p>平成11年度からL型側溝を路肩内に設置し、路肩幅員の縮減を行った結果、土工量等の減少により、これまでの5年間で30百万円の縮減が可能となりました。</p> <p>平成10年度から補強土壁工採用し、これまで6年間で551.6mを施工実績で、従来のコンクリート擁壁に比べ、49百万円の縮減が可能となりました。</p>
<p>6 環境配慮</p> <p>(1) 間伐材等の利用 間伐材を利用した木柵工やウッドブロック、木製法枠工、木製視線誘導杭など森林資源の有効活用を図りながら、通行の安全確保や周辺環境保全に必要な対策を講じています。 林道事業では、本年度から、工事で発生する支障木の根株をチップ化して緑化工の基盤として利用する工法に積極的に取り組むこととしています。</p> <p>(2) 水質の汚濁防止 小又側に簡易水道取水地、新鹿側に簡易水道取水地と冷泉の湧出する湯の薬師がありますが、これまでは適切な対応策を講じたため、これまでのところ問題は発生していません。新鹿側水系の湊川が新鹿海水浴場に流下することから、今後も適切な水質汚濁防止対策を講じていくこととしています。</p> <p>(3) 景観配慮 景観に影響を与えるような地形の改変を最小限にするとともに、早期の緑化等により景観配慮に努めています。</p> <p>(4) その他 熊野地方で発見された新種のシダ、アタシカカナワラビの群生が、林道の線形から比較的近い人工林で見つかったことから、万が一の影響を考え、専門家と協議の上、平成7年度に影響のない場所に移植をしました。 平成15年度から掘削機械についてはすべて排出ガス対策型を使用しています。</p>
<p>7 費用対効果分析</p> <p>B(便益) = 4,544,970 千円 C(費用) = 2,444,253 千円 B/C = 1.85</p>
<p>8 林道の効果</p> <p>浅谷越線周辺には、伐採後、植林され、適正に管理されている比較的年齢の若い森林もみられます。林道の整備によって、今後の森林作業コストの低減や、搬出コストの低減を図ることが可能になり、林業活動の一層の活性化を図ることができます。</p> <p>国道311号、県道佐渡新鹿線は、ともに急峻な地形条件のため、国道、県道被災時の迂回路となります。</p>
<p>再 評 価 の 経 緯</p>
<p>平成11年度再評価審査委員会において、環境に配慮した林道計画について検討すること、との意見をいただき、環境配慮に努めながら林道事業を実施しています。</p>
<p>事 業 主 体 の 対 応 方 針</p>
<p>三重県公共事業再評価実施要綱第3条の視点を踏まえて再評価を行った結果、同要綱第5条第1項に該当すると判断されるため、コスト縮減と環境配慮に努めながら早期完成を目指し、事業を継続したい。</p>